



原子力産業新聞

2014年2月20日
 平成26年(第2707号)
 毎週木曜日発行
 購読料1年前分金(消費税、国内送料込)
 会員 9,500円(1部220円)
 非会員 15,000円(1部350円)
 (当会会員は年会費13万円に本紙購読料の9,500円を含む。1口1部)

発行所 日本原子力産業協会

〒105-8605 東京都港区虎ノ門1丁目2番8号 虎ノ門琴平タワー9階 郵便振替 00150-5-5895
 電話 03(6812)7103 FAX03(6812)7110 ホームページ http://www.jaif.or.jp/ メールアドレス shinbun@jaif.or.jp

昭和31年3月12日第三種郵便物認可

原子力委に評価の役割を 廃棄物WG 地層処分の推進体制

経済産業省の総合調査「放射性廃棄物ワーキンググループ」は十四日、地層処分の推進体制強化に向けた議論の中で、今後、新たな組織に衣替える原子力委員会に、「行司役」的視点に立った第三者評価役割を担わせるべきとする方向性を示した。

既存の審議会による第三者の評価は、立地選定を進めるための取組をどう改善するかという「応援」的視点だったとして、同日の会合では、処分事業の可逆性・回収可能性を実効的に担保し、段階的な社会的合意形成を図っていく観点から、「行司役」的視点に立った第三者評価が不可欠との見方が示された。その上で、政府の有識者会議が示した原子力委員会見直しの方向性で、同委は今後、推進を担うのではなく、原子力に関する諸課題の管理、運営の視点から活動とされている。

「日本との関係は重要」
 米議員団来日
 D・デゲット米閣下院議員を団長とする米議員団と林芳正・農林水産相を団長とする日本議員団の双方超党派議員が十八日、都内で記者会見を行った。米議員団は、安全保障やエネルギーにわたる意見交換や視察を通して、議員同士の関係を深める「日米議員交流」の一環で来日している。



浜岡4号機が審査を申請

防波壁で海大規模津波に対応

中部電力は十四日、浜岡原子力発電所4号機の新規制基準適合性に係る審査を規制委員会に申請した。これで、規制委員会による審査中の原子力発電プラントは計十七基(うちBWR五基、PWR十二基)となった。

同社では、発電所敷地周辺の地震に関して、不確かさを考慮した評価を行い、基準地震動Ssを、観測点での顕著な増幅の有無により、千二百ガルと二千ガルの二種類、新たに策定し、これを踏まえた耐震工事を実施するほか、津波についても、南海トラフのプレート間地震も考慮し、防波壁面の最大水位二十一・一m(東京湾平均海面)に対して、敷地内への津波侵入を防止できることが確認されたとしている。

さらに、自然災害では過去に発生した竜巻による最大風速から設計竜巻を設定して対策を実施するほか、半径百六十km圏内に、将来活動の可能性がある十二の検討対象火山を抽出し、火山灰降下による安全機能喪失のないことなどを確認した。

中部電力の水野明久社長は、今回の申請に際して、新規基準の枠組みにとどまらず、安全性をより一層高めるよう自主的かつ継続的な対策を進めていき、地元への丁寧な説明にも取り組むなどと述べている。

なお、浜岡発電所は一年五月に、政府より、想定東海地震などによる大規模津波への対策完了

までの間、全号機の停止を要請されている。

現在開催中の第百八十六回国会本会議で十四日、原子力委員会委員長に岡田豊功氏が就任した。

岡田氏は、原子力委員会委員長に岡田豊功氏が就任した。岡田氏は、原子力委員会委員長に岡田豊功氏が就任した。

岡田氏は、原子力委員会委員長に岡田豊功氏が就任した。

岡教授が原子力委員長に 国会で人事同意 委員に中西、阿部両氏

原子力委員会委員長に岡田豊功氏が就任した。岡田氏は、原子力委員会委員長に岡田豊功氏が就任した。

岡田氏は、原子力委員会委員長に岡田豊功氏が就任した。

岡田氏は、原子力委員会委員長に岡田豊功氏が就任した。

最終段階で「審査書案」作成

規制委、審査の進め方
 原子力規制委員会は十九日、現在進めている原子力発電所の規制基準への適合審査の進め方を議論し、審査の最終段階となる「審査書案」を作成する方針を決めた。審査実効線量は、放射性セシウムの三分の一以下とすることなどを説明した。

PRARラウンド テーブル都内で 日米の安全協議

原子力施設で起きる事故の発生頻度と影響を定量的に評価し安全性を数値化するリスクマネジメント・ツール「確率的リスク評価」(PRA)に関して日米間で議論するラウンドテーブルが二月念する声に異議を唱えた。

審査書案がまとまった後、四週間程度、国民から科学的・技術的な意見を募集する。立地自治体などの要請によっては公聴会の開催も検討する。審査書案は、いわば審査合格書の原案となる重要文書となるため、原子力規制庁の担当者チーム編成し、総力を挙げて行うとしていた。

ス・原子力規制委員他、電気事業者、エンジニアリング会社、コンサルティング会社などが出席する。

産業界による原子力の自主的な安全性向上を検討する経産省のワーキンググループでは、一三年七月からの議論で、リスク評価手法が主要論点の一つとなっており、十二月の中間整理では、米国のPRA活用として、オンラインメンテナンスの実施などが、規制運用の最適化を通じて事業者側のリスク部門の発言力引上げにもつながったとされている。

この一週間の出来事

(13日(木)～19日(水))

- ・廃炉・汚染水対策福島協議会が初開催 (17日)
- ・規制委、新基準で柏崎刈羽地質調査(17,18日)
- ・記録的豪雪で電気などライフラインに影響

原産新聞の紙面から

◇国内ニュース

- ・廃炉技術で日米企業の交流イベント開催(2面)
- ・国問研が日米原子力協定で研究報告(2面)
- ・放射線リスクで基礎情報資料が公表(4面)
- ・千代田テクノ大洗新事業所レポート(4面)

◇海外ニュース

- ・フィンランドの計画で環境評価書改定(3面)
- ・アルゼンチンが独自SMRを本格着工(3面)
- ・UAEのバラカ3、4号で建設準備開始(3面)

KCPC

原子力関連機器・装置の信頼を誇る
KCPCはお客様の種々のニーズに対して
 高い技術と長い実績でお応えしております。

原子力 営業品目

キャスク関係	MOX燃料製造設備
燃料取扱装置関係	ホットラボ・セル関係
核燃料再処理機器関係	照射装置関係
放射性廃棄物処理装置	原子力周辺機器関係

上記の設計・製作・据付・試運転

未来へ挑戦する KCPC

木村化工機

株式会社

■本社工場 ☎ 06-6488-2501
 ■東京支店 ☎ 03-3837-1831
 E-mail:tokyo@kcpc.co.jp

ファックス 06-6488-5800
 ファックス 03-3837-1970



MOX用レシプロ式プレス機